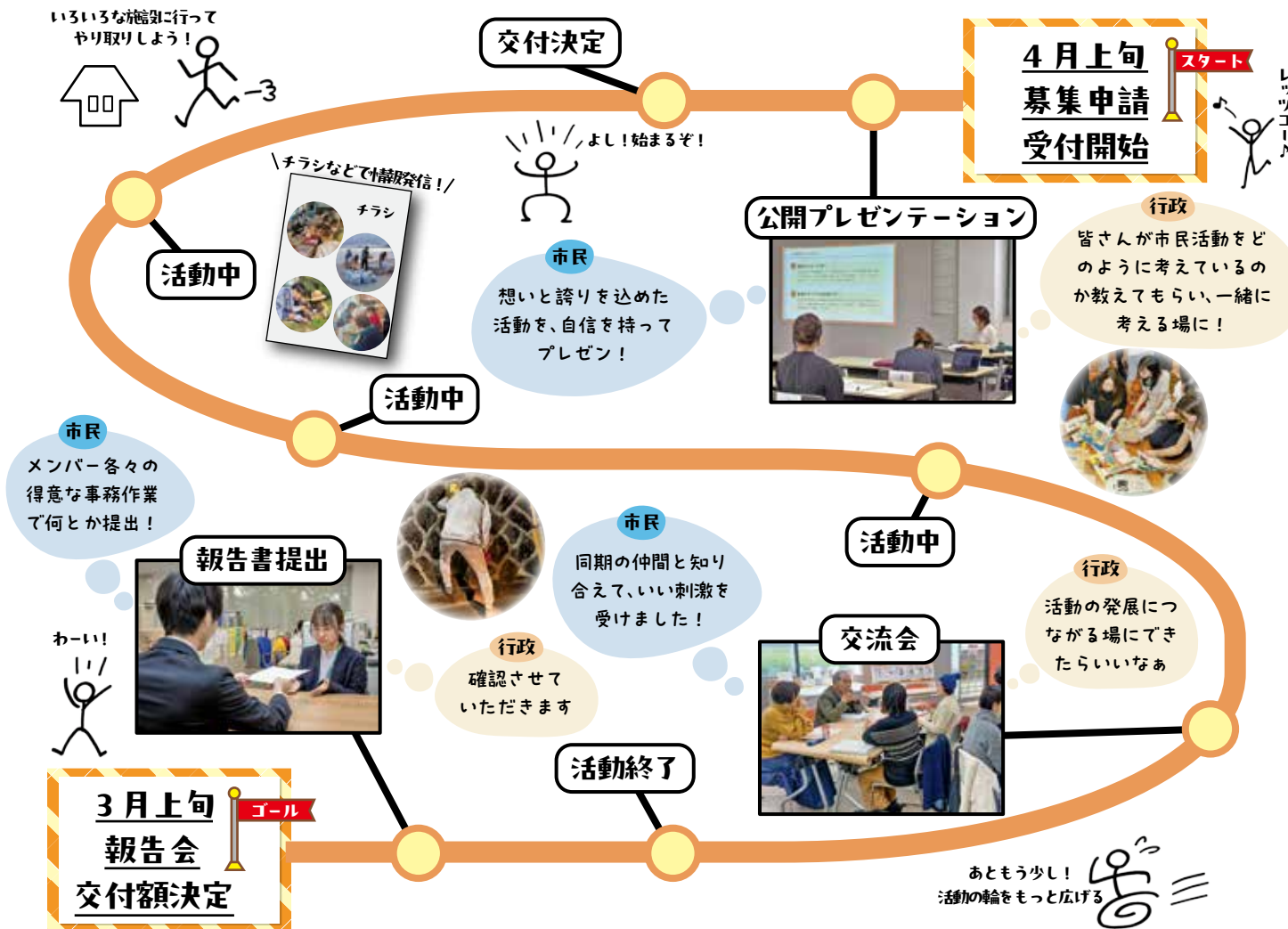


住みよいまちづくり推進企画 1年間の流れ



特集 私たちでつくる「住みよいまち」

—— 住みよいまちづくり推進企画活動補助事業 20年の出来事とこれからへの期待 ——

事業の始まりから20年を経た今年度、補助金に関わってきた市民グループや補助金審査員などが集い、皆で作った年表を眺めながら20年間を振り返り、これからの「住みよいまち」について語るワークショップを開催しました。ここでは、事業紹介とともに、ワークショップから生まれた声を報告します。

県下では先駆的な取り組みとして始まった補助事業

この事業は「住みよいまち」を目指す市民グループが自ら企画・実践する活動に対し、市が補助金で支援するものです。合併前の旧福岡・津屋崎町で、各部署が担当していた「市民活動支援の補助金」を一本化し、誕生しました。分野を問わず、申請できる補助事業は、事業開始当初、県下でほとんど取り組みがなく、先駆的なものでした。

思いが込められた活動を審査

毎年度、市民グループの皆さんの思いが込められた企画活動の申請から事業は始まります。市民活動の有識者や実践者で構成する審査会が、企画書などの書類とプレゼンテーションの内容を基に事業の審査を行い、その結果を参考に、市が交付決定をします。その点が、他の補助事業と異なる特徴です。

企画活動の募集から実施報告までの1年間の流れを、次のページに整理しました。

多彩で幅広い分野の165の企画活動を実施

事業開始から今年度までの21年間に、歴史・文化、スポーツ、子育て、教育、多文化共生、地域活性化など、多彩で幅広い165の企画活動が実施されています。審査会会長の加留部貴行さんは、他自治体の類似事業と比較し「福津市の企画活動は、明るく、前向きなものが多い」と話します。

新たに誕生したグループなど75の市民グループが活躍

補助金を活用した市民グループは75グループにのぼり、中学・高校・大学生からシニア層まで、多様なカタが活躍しています。本事業をきっかけに、旧2町の住民が協力して結成したグループや、学生と手を組むグループなど、異なる属性が混ざり合う新しいグループも誕生しました。年度ごとの企画活動は、ワークショップの様子とともに、次のページから紹介しています。

「調査研究」から冊子が誕生

これまでに8種類の冊子が誕生。「自分たちの地域のことを把握し、形に残していこう」という思いでのこの活動は、他の自治体にはない、福津市の「特徴」と加留部さんは言います。



福津の市民活動の特徴

「子育て分野」の企画活動が多い

暮らしの中での「子育て」は大切な要素。子育て中や子育て後に、暮らしを住みよくしたいという思いから生まれた子育て分野の活動は、事業初年から絶え間なく取り組まれています。



▲事業初年度の体験活動

福津の市民活動 3つの傾向と変遷

後期2020年ごろ～

コロナ禍を機に、自分の暮らしの中で大切にすることをみつめ直す時期に。価値観やまちづくりへのニーズも多様化。SDGs未来都市となり、企画活動の幅が広がりました。

中期2015年ごろ～

世間では、民間の助成金やクラウドファンディングが充実。初めて市民活動を行うグループからの申請が増えた時期。事業へ組織力を育む意味合いもプラス。

初期2005年～

旧2町で市民活動を行っていたが、集い、大規模なイベントや講座などに挑戦した時期。活動を通して、互いのまちを知り合い、新しいつながりが生まれる機会に。

企画活動の内容や市民グループの傾向から見て、事業には次の3つの傾向があると整理できました。





「共に何かをしよう！」
というメッセージが強くなる！
連携するのもアリ!? ▽

以前は、市民活動の中でも先進的な集まりでは、同じメンバーになることが多かったが、今は新しい出会いも増え、活動者の幅が広がっていると感じる

2011年3月 東日本大震災発生

「すみやすい」じゃなくて
すみよい

2008年～2011年
学生と地域との
コラボ企画が
誕生！

企画活動を通して、
地域の人との新しい出会いが
ありました。

交付決定
グループ数
8グループから
START

予算規模
1,000万円から
START

2008年9月
県研修で学んだことを
福津市で生かしたいと
思いました。
みんなですすめるまちづくり
基本条例制定

まちの一体感を生み出す活動

2005年1月 福津市誕生!!

合併直後の3年間の募集テーマ

2011 ■ 生き生き子どもの表現ワークショップ／慶州・福津文化親善交流会訪問団(韓国)福津市来訪歓迎交流会／第7回ふくつスポーツフェスタ11／地球環境スポーツカーフェスティバル2011／津屋崎塩田物語／RockFestival in 宮地嶺神社 MIYA-JICK 2011／わくわく冒険遊び場2011子どもが主体的に遊ぶ野外の遊び場づくり

2010 ■ うみつ子くらぶ／慶州・福津文化親善交流会訪問団(韓国)福津市来訪歓迎交流会／第3回30世紀福津フォーラムの開催／第6回ふくつスポーツフェスタ10／男女がともに歩むまちづくり講座／2010年福津ビーチサッカーフェスティバル／認知症サポーターの養成講座を広げよう／福津市小中学校巡回ノーマライゼーションコンサート／ぶくぶくおしゃべりカフェ&ぶくぶく子育て支援セミナー／RockFestival in 宮地嶺神社 MIYA-JICK 2010

2009 ■ うみつ子くらぶ／五感で自然にふれて豊かな感性を育む／子どもにやさしいまちづくり連続講座／心の健康講座／子どもにやさしいまちを実現しよう／子どもの居場所を考える／紺屋「藍の家」再現と福津市景観づくり／世界遺産・文化遺産とともに暮らすためのまちづくり／第5回ふくつスポーツフェスタ09／第3回ぶくぶく子育てフェスティバルほか／第2回30世紀福津フォーラムの開催／津屋崎千軒の町並み散策地図「多言語マップ」発行による福津市の活性化／津屋崎千軒 吉原家文書調査／福津市ぐるっと一周ウォークラリーとマップ作り

2008 ■ うみつ子くらぶ夏休み編／慶州・福津文化親善交流会(韓国慶州市)日本訪問団2008年福津市来訪歓迎行事福津・慶州文化親善交流会／五感で自然にふれて豊かな感性を育む幼児期からの環境教育／子どもにやさしいまちを実現しよう／紺屋「藍の家」再現と津屋崎千軒景観づくり／三世代交流の居場所づくり／第4回ふくつスポーツフェスタ08／地球環境スポーツふくつビーチサッカーフェスティバル2008／津嘉山正種ひとり語り「父と暮せば」／福津市ぐるっと一周ウォークラリー&調査企画／ぶくぶく子どもフェスティバル他／マリンサイエンスキャンプin福津／連続講座「こころからだ」といのちのメッセージ／RockFestival in 宮地嶺神社 V.O.L.4 ミヤジック(MIYA-JICK)／新たな伝統芸能の発掘を目指して

2007 ■ 大峰山ウォークラリー&調査企画／親のためのシニタイナー教育連続講座／慶州・福津文化親善交流会(韓国慶州市)日本訪問団2007年福津市来訪歓迎行事福津・慶州文化親善交流会／こどもからだとの心と栄養を総合的に考える／紺屋「藍の家」再現／スポーツフェスタ07／第3回福津ふれあいキャンプ／たつぷりどつぷり中国交流会&おもしろサイエンスin福津／谷川俊太郎・谷川賢作朗読と音楽のコンサート／津屋崎千軒をはじめとする市内の歴史・観光資源を結んだ観光・健康まちづくりの調査研究／「忍者まつり」／忍者になつてまちをあそぼう／福津市の自然を活用した環境教育のまちづくり企画／「福津の絵馬」づくり／「福津のよかとこ探し隊」第1回海岸ルート(福間漁港・津屋崎漁港)／ぶくぶく子どもフェスティバル／で愛・ふれ愛・つながり愛・おおくなあれ子どもたち

2006 ■ 「あそび・体験」いきいき子ども講座／「秋のファミリーコンサート」／あそび・体験「いきいき子ども講座」／こどもにやさしいまちづくり／スポーツフェスタ／ドン・キホーティン FUKUTSU／福津ふれあいキャンプ／ヨットレースin福津05

2005 ■ 青島広志の「ごんにはモーツァルト」／秋のファミリーコンサート／あそび・体験「いきいき子ども講座」／こどもにやさしいまちづくり／スポーツフェスタ／ドン・キホーティン FUKUTSU／福津ふれあいキャンプ／ヨットレースin福津05

前向きなものが多い
福津ならではの!?

共働コース START

2010年
～市とグループが共働で地域解決を目指す～
初年度のテーマは...

認知症サポーター 共生社会 男女共同参画

みんなで一つ一つ
楽しくつくってきた
という雰囲気を
感じた

手段と手法がバリエーション豊かだ!

市民活動を通して
福津の良さを
可視化することができる

「郷づくり」活動 START
2007年

募集テーマ
Change!!!
「まちづくり計画の将来像の
実現に向けた企画種別になる」

Point
調査・研究からの
初の冊子
「福津の絵馬」

2007年3月 第1次まちづくり計画策定
「人を、明日を、誇るまち、福津。」

何かをしたいという想いの実現に
補助金を活用しました。
今はNPO法人になりました。

住みよいまちづくり推進企画活動の20年間をのぞいてみよう
20年間に補助金を交付した「住みよいまちづくり推進企画活動」の名称を「一挙紹介。またワークショップで出た声を紹介すると共に、活動への想いを4つのグループにインタビューしました。



みんな歴史が好きだからできました
Interview Vol.2 福津郷土史会 大賀 康子さん

私たちは、補助金を活用して「福津の絵馬」という冊子と「吉原文書追加目録」を作成しました。
メンバーの得意分野や知識を生かしながら、市内各所の神社に残されている絵馬を調査、また、吉原家の解体に伴い郷土史会に寄託された約2千

点の文書を整理し、まとめています。地域の歴史や文化を再確認でき、完成できたことが自信になりました。
また、事業報告会の中で「市の助成金でこのような本が作られ喜ばしい」と講評があり「頑張ってたかった」と感じたことを今でも覚えています。



▲作成した冊子と目録

認知症の人が住みやすいまちづくりを
Interview Vol.1 認知症セーフティネットワーク蓮華草 松永 幸代さん

「認知症に関する啓発活動を継続的に行う必要がある」と感じていたことから『認知症サポーターの養成講座を広げよう』という事業を行いました。それから15年間、講座を通して、認知症のかたへの関わり方を伝え、一人でも多くの人が認知症のことを理解できるように努めて



◀講座の寸劇で認知症の人に優しく寄り添う家族

います。また、この事業を通して、講座で使用するテキストを作成し、他の市民活動団体とのつながりも生まれました。
歳を重ねると認知症のリスクが増えます。自分自身が認知症になったときに「住みよいまち」を自分たちで作ることが大切だと考えています。

——橋内—— この事業は、市民活動への挑戦のキッカケづくりを担っていると思います。

——山田—— 市民や社会に向けて、「福津市が市民の活躍を応援し、やってみることを実現するまちである」とメッセージを伝える役割も担っていますよ。

——瓜生—— 今、この事業を通じて、世代を問わず新たな活動に挑戦できる雰囲気生まれています。「楽しい地域になったらいいな」と思ったときに、自らがまちを創ることができ、この事業をぜひ続けてほしいです。

——福井—— 中学・高校生や大学生などの若い世代が、やってみることに挑戦する機会も広げたいと考えます。仲間と共に市民活動や市民共働を学び、実践する機会が豊富にあるれば、一人一人が自分ごととして、まちや地域を想い、そこに関わる人々と共に生きていくという環境づくりにつながると思います。この事業やキッカケラボの取り組みを通して、新たな挑戦を温かく迎え入れ、応援する環境づくりは引き続き進めていきます。

——雪松—— この事業は、単にお金を出すのではなく、福津で市民活動を行う「意味」も考えるキッカケになっていると思います。グループの考え方や活動内容を固定化せず、周りの声を聴き、話し、考え、改善しながら「これでいいのか」を考えてほしいし、審査員の私たちも共に考えていきたいです。

——橋内—— 活動は立ち止まって、振り返ることも大切です。この事業やキッカケラボを生かす。さまざまな人と共に考えることで、次への一歩を踏み出しやすくなると思います。

——山田—— この事業の在り方も、時代に合わせたアップデートが必要ですよ。

——雪松—— 特に、この事業は行政や民間のサービスではなく、活動するのは市民の皆さんです。制度を変える際には、活動者の声に耳を傾け、広い視野を持って、共に制度を作っていくと思います。

——加留部—— 市民の皆さんの力量や認識などの変化に応じて、

事業の在り方ややり方を変えていく必要が出てくるでしょう。この事業自体の成長も、そこに寄与する一因となるように改善を施していく必要性を感じています。

「住みよいまち」を共に語り、共に創る

——加留部—— 私は、この事業で、各々の活動や団体が成長していくことを期待しています。その際、福津のまちの成長や成熟の度合いによって、市民の皆さんがどのような状態を「住みよい」と捉えるかが焦点になると考えています。

——山田—— 「住みよいまち」について、共に考え、共有し合うことが大切ですね。

——福井—— まちの将来像に向け、行政だけでは追いついていない視点を顕在化させてくれる「市民活動」「市民共働」の役割は、ますます大事になっていきます。今回のように皆で集い、活動を振り返る機会を設け、常に「住みよいまちとは何か」を市民の皆さんと共に考え、成長し続けるまちでありたいと思います。



住みよいまちに向けた、この事業への期待 — 審査員と福津市長の座談会にて —

審査員の皆さんと市長で、市民グループ、審査員、市職員によるワークショップを振り返る座談会を11月16日に開催し、住みよいまちづくり推進企画活動補助事業へのこれからの期待を尋ねました。

——加留部—— 福津市は合併以降、旧2町の特徴が融合し、徐々にまちが成熟、近年ではコロナ禍や新しい住民の流入に伴って新たな価値観が浸透するなど、絶えず変化しています。市民活動支援を行う「市未来共創センターキッカケラボ」を入口に、新たな活動者も誕生しています。

——瓜生—— コロナ禍を境にこの事業へ提案する活動者の想いも変わりました。新しい思考を持つ人たちが現れ、まちが変わっていく予感がします。

——橋内—— 新しい市民活動が生まれていて、まちに明るい未来が見えてくるような気がしています。初めての活動でも「とりあえず、1回やってみよう」と挑戦する姿勢がとても大切だと感じています。

——福井—— 挑戦することは、人がまちに関わる上での機会になると思います。その挑戦がつながり合って、今のまちが創られていくのではないのでしょうか。

チャレンジを応援する場に

公

開報告会を見学しませんか？

今年度の企画活動を終えた7グループが、これまでの活動の成果や、今後の展望を発表する報告会を開催します。

日程 3月27日(金)

場所 市役所別館大ホール

問い合わせ 地域コミュニティ課 ☎0940・62・5007、メール kyodo@city.fukutsu.lg.jp

報告会の開催について、今年度の7グループの詳しい情報は市公式ホームページをご覧ください。

▲公開報告会で発表するグループと見学者

のぞきあな ART 津屋崎

暮らしにアートを潜ませることで、アートと共に津屋崎のまちの魅力を高め、つくりたいと思っています。この活動が地域の活性化につながり、さらに幸福度の高いまちになることを目指しています。

のぞきあなARTプロジェクト 三浦直子さん

Sunset Beach Cleanup

地域内外の人が集う場をつくり、地域商店の活性化や住民によるまちづくりで、地域を盛り上げたいです。また、津屋崎の暮らしなど、ディープな魅力を市内外の人に広く知ってほしいです。

Sunset Beach Cleanup 柴田 広輝さん

爪から健康を考え、日常に彩りを添えて 人生100年時代を楽しもう！

地域のかたが気軽に立ち寄れる場として、外出のきっかけにつながる活動をしています。参加者同士の交流を通して、自分にできることを活かした地域参加へとつながるような環境づくりを大切にしています。

ふくふくネイル 吉田 雅子さん

タイムカプセルの循環で 地域社会の活性化

25年前に埋めたタイムカプセルの掘り起こしをキッカケに、参加者それぞれの25年前、現在、未来への想いを共有し合える場を開催し、多世代交流と次世代への想いの継承を生み出したいです。

えがお 笑顔の会 福島 雅一さん

親子でサステナやさい体験

循環型コミュニティ菜園で、自然こそ学びの場であることを実感したこと、菜園活動を通じた親子の体験の場で、大人も子どもも好奇心や面白さを自然から感じられる機会をつくりたいです。

ななしさいえん 仲村 浩一さん

感覚の庭で、わたしを育てる

子育てで忙しく、自分の思いと向き合う時間が取れず、歯がゆい思いをしたのがきっかけで、活動を始めました。心の豊かさを取り戻すことができ、自分を表現できる場をまちにつくりたいです。

ハウス マスカン House mannequin 柴田 園生さん

まちから守る、ふくつの海！ ごみ拾い推進活動

身近なまちの環境が、少し離れた海の環境にもつながっていることを広く知ってもらうための活動を通して、一人でも多くの人々が環境への行動を起こすことで、福津を自慢できるまちにしたいです。

くらげれんごう 山崎 唯さん

R7

住みよいまちづくり推進企画活動紹介

令和7年度の補助金交付グループに、どのような想いで活動しているのか聞きました。